



(公共 DX 未来会議) 参加報告書

【報告者】

草津市議会会派 (チャレンジくさつ)

八木 良人



標記の研修会参加につきまして、下記の通り、報告します。

記

I 研修会の概要

1. 日 時 2021年4月20日(火) 16:30~18:00
2. 研修形式 Zoom ウェビナーを利用したオンラインセミナー(同時通訳付き)
参加場所・草津市議会チャレンジくさつ会派室
3. 講 師 オードリータン氏・登大遊氏・庄司昌彦氏
4. 研修内容 「エンジニアが生み出す公共DXへの可能性」
5. 参加者 草津市議会会派(チャレンジくさつ) 八木良人

公共DX未来会議 Vol.1参加報告書

開催日：2021年4月20日（火）16：30～18：00

会場：Zoomウェビナーを利用したオンラインセミナー（同時通訳付き）

参加者：八木良人

企画・運営：一般社団法人 行政情報システム研究所

公共DX未来会議タイムテーブル

16:30-16:35 主催者挨拶

16:35-16:55 オードリー・タン 氏 キーノートスピーチ

16:55-17:25 パネルディスカッション

オードリー・タン 氏 × 登大遊 氏
庄司昌彦 氏（モデレーター）

17:25-17:45 Q&A

17:45-17:55 ふりかえり

17:55-18:00 クロージング

公共DX未来会議とは？

「公共DX未来会議」はAISが今年度から開始するインタラクティブ型イベント。国内外のオピニオンリーダーをスピーカーにお招きし、参加者と共に公共DXを考え、学びを深める場として不定期に開催されます。



Vol.1は天才エンジニアが考える公共DX

今回の公共DX未来会議は「エンジニアが生み出す公共DXへの可能性」をテーマとして、システムやデジタルサービスを公共組織内で内製化することが各国政府における、公共DX成功の一つの流れになっていることを考えます。オードリー・タン氏も登大遊氏も共に天才エンジニアとして活躍されています。

イベントの様子

オープニングの様子

当日はイベント開始直後から190名近い参加者の方がウェビナーに参加されていました。オードリー・タン氏と自治体のテレワークシステムをつくられた登大遊さんということで、参加者の熱気が感じられるセミナーでした。

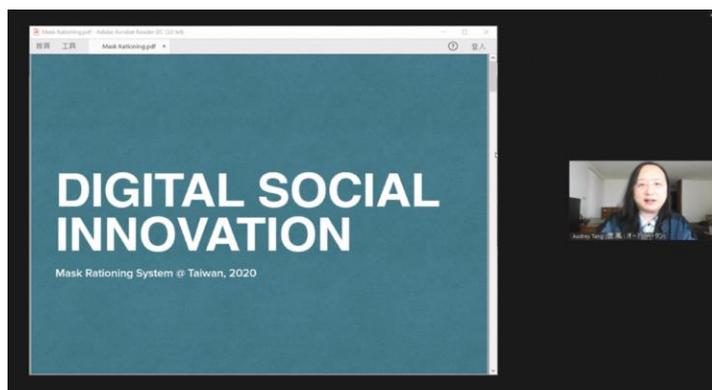


キーノートスピーチ

オードリーさんの心地よい声、そして台湾のように公共DXを進めているかマスクアプリ事例を使い丁寧に、ユーモアを交えてプレゼンをしてくださいました。

- ユーザーの声を聞く
- サービスデザインの重要性
- 人がデジタルに合わせるのではなく、デジタルを人に合わせる

など金言の数々をシェアしてくださいました。



どの

パネルディスカッション

オードリーさんのお話に皆が心を熱くしたところで、パネリストに登大遊氏、モデレーターに庄司昌彦教授（武蔵大学）を迎え、パネルディスカッションがスタート。

登さんからオードリーさんにどうしても聞いてみたいことがあるそうで・・・。

「オードリーさん、感電したことがありますか？」

登さん、いきなり何を！と誰もが思いましたが、オードリーさんは冷静にこう答えました。

「はい。あります。」

二人の冒頭でのやり取りです。



登さん：子どもの頃、感電したことはありますか？ または、子どもの頃、頭を強く打ったことはありますか？ もしあれば、詳しく教えてください。私は、大学で周囲の多数の教授やコンピュータ・マニアの学生に質問をしたところ、80% くらいが感電したことがあると答えました。常軌を逸脱した人の感電割合は非常に高いと思っています。オードリー・タン氏は、特に、常軌を逸脱しているので、是非教えていただければ幸いです。

オードリーさん：頭を強く打ったことはありませんが、小学校に入る前に、感電をしました。大人が、「ソケットに突っ込むと感電して危ない」と言うので、「それで死ぬことはありますか？」と聞いたところ、「濡れた指だと死ぬかも知れないよ」と言われました。そこで、乾いた指ならば大丈夫だと思い、よく指を拭いて、ソケットに突っ込んだところ、感電をしたのです。

公共DX未来会議に参加して

日本国中でDXという言葉を書かない日がないくらい、DXという言葉があふれています。その中で、今回参加して公共DX未来会議では、お二人の天才からのさまざまな観点からのお話と実践を聞くことができ、なんとなくではありますが、地方自治体でのDX推進の方向性が見えたように思います。

No One Left Behind(誰一人取りこさない)を合い言葉に日本ではデジタル改革が始まりました。そしてDXという考え方で具体的な改革に取り組む民間や公共も増えつつあります。今回の研修でこれらの動きの中で一番大事だと感じたことは、すべての人に寄り添う政策であり、それをユーモアをもって楽しみながら実践するということです。今後の活動にとって大きな気づきを得ることができた研修でした。

最後に、にオードリーさんが教えてくれた言葉が、まさにそれを表しているように思います。レナード・コーエンの詩の一節です。

Ring the bells that still can ring
Forget your perfect offering
There is a crack, a crack in everything
That's how the light gets in

まだ鳴らせる鐘を打ち鳴らせ
完璧な捧げ物なんて忘れてしまえ
すべてのものはひび割れている
光はそこから射しこんでくる

「ひび割れ (crack) =失敗や不完全さ」があるから、光が差し込むというメッセージは心に響きました。